



発行年月日 2021年6月30日

発行者 日本作業科学研究会広報

ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

本ニュースは、会員向けメール配信のニュースを半年ごとにまとめ、記録としてHPに掲載するものです。会員に向けてはニュースがあったときは、本ニュースとは別に、最速でメーリングリストを通して個々人の登録したメールアドレスに配信しています。 ニュース担当理事：齋藤さわ子、西野歩

OS caféに参加してみませんか？

今年度から、対面の研修会や集まりができない代わりに、オンラインの研修会を開催しています。従来の研修会の内容に加えて新しい企画も始まっています。“OS Café”は講義形式の研修会とは異なり、テーマに合わせて、話題提供者が話題を提供し、自由に参加者が話をする場です。

「OS caféに参加して」

星野藍子(名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻)

OSカフェでの「作業的公正」に関するディスカッションに参加しております(4月は発表もさせていただきました！)。私にとって、作業科学の知識と、自分自身の考えを総合し、交流しながら理解する貴重な場です。そしてOSカフェでの議論に基づき、自分自身の興味の赴くままアクティブに学んでいけるだけの十分な知識の土壌が作業科学にあること、その学びを共有し高めていける仲間や諸先輩方がいてくださることにも感謝しております。

*次号でも参加者の感想を伝える予定です！
次年度も、入門講座など新しい企画も予定しています。
ぜひご参加ください。

2020年8月 新理事を迎え、吉川ひろみ会長の任期終了に伴い、新会長に近藤智子さんが着任しました。

会長をはじめ、副会長及び他の理事の挨拶及び抱負はHPに掲載しています。ぜひご確認ください。

日本作業科学研究会第24回学術大会の開催のお知らせ

参加申し込みが始まりました。締め切りは10月1日(金)です。

〈テーマ〉日々の暮らしを彩る作業

〈日時〉2021年10月23日(土)～10月24日(日)

〈場所〉ZOOM 開催

〈大会長〉山根伸吾

〈テーマの主旨〉

日本作業科学研究会第24回学術大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年の秋に開催予定でしたが、延期させて頂き、今回、オンラインでの実施となります。

学術大会のテーマは、2020年度開催予定時のテーマと変更なく「日々の暮らしを彩る作業」です。このテーマは、日々の暮らしを彩る作業の変容が要求され

た、現在の状況だからこそ、その必要性や重要性に、実感や経験を伴う形で、改めて気づかれたのではないのでしょうか。

2020年の開催予定時のご案内に、「作業は日常に埋め込まれているため捉え難く、見過ごされてしまうとも言われます。しかし、当たり前前の日常にこそ、かけがえない彩りをもつ作業が、そして暮らしを多様に彩る作業があるのではないのでしょうか。また、これらの作業は、持続可能(サステナブル)な作業なのではないでしょうか。」と書きました。皆さんの日々の作業はどのように変わりましたか、あるいは変わらなかったですか？

今回は初めてのオンラインという形態ですので、これまで遠方で参加が難しかった方や、ご都合がつかなかった方も是非ご参加いただけたらと思います。オンラインならではの特性を活かして、参加者の皆様の主体的な参加、積極的な学びや交流の場になるよう、事前にコンテンツ視聴期間を設ける等、実行委員一同、工夫を考えています。形態は変わりますが、参加者の皆さんにとって大切にしている本学術大会への意味がより大きく、意義のあるものになるようにしていきたいと準備を進めています。

そして、一般演題や自主企画についても、ぜひご検討いただき、皆様のここ数年の取り組みや経験を教えて頂けたらと思っています。多くの皆様のご登録とご参加をお待ちしております。

〈講演・ワークショップ〉

・基調講演:Karen Adler (Colorado State University)

『Awareness of Occupational Experiences in Every Day Life: An Opportunity to Explore and Enhance Well-Being』

・佐藤剛記念講演:西方浩一(文京学院大学)

『脊髄損傷青年のオートエスノグラフィー』

・特別講演:藤巻康一郎(県立広島大学)

『精神科における認知機能リハビリテーションの必要性とその効果～医師の視点から精神科病院の作業療

法を考える～』

・ワークショップ①:

『世界の食卓を語り、未来のあなたと私の持続可能な日常の作業を想像する』

吉田美穂(一般社団法人 国際環境協力ネットワーク)

・ワークショップ②:

『作業ポートフォリオチャートを使つての自己理解』

2020年度 第5回三役会議題

〈日時〉2021年3月19日(金)20:00～

〈場所〉Zoom ミーティング

〈出席者〉:近藤, 齋藤, 中塚, 山根

資料:会員状況 2021年3月17日

【報告・検討事項】

I. 報告確認事項

1. 事務局報告

1) 会員数と会計状況

・会員数:212名(内, 学生会員3名)

・会計:収入計 657,124 円 支出計 474,864 円

通帳残高 1,118,178 円

2) 事務局の活動報告

①振替口座の開設作業完了→研究法研修会担当者(中塚さん)へ使用方法の説明済み

総合口座のほかに口座(ゆうちょダイレクト)の開設:中塚(研究推進班)、渡邊(実践につなげる班)、坂上(事務局)がアクセス可。研修会用か? 今後審議が必要。学術大会用としても使えるかもしれないが、次回の大会は使用しない方向。

②HP サーバー, 機関誌関連の支払い済み

③機関誌担当へ名簿の提供(査読者リスト作成のために, 氏名と所属の提供)

④研究法研修会(2月)の参加費納入状況の確認と講師料・運営者謝金の振り込み

(今後は、各班の担当者に全面的にお願いすることを確認済み)

⑤ 事務局一斉メールにて各種研修会のお知らせ

2. 各班活動状況

(ア) 学術

①研究推進:

2月20日(土)10-12時「質的研究法」オンライン研修会を開催(講師:小田原悦子)、参加者23名(会員19名、非会員4名)、参加費を徴収、大きな問題はなく開催できた。参加者の感想も好評)。18120円の黒字(両日参加会員2000円、非会員3000円)。身の回りの声かけで、参加者を集めた。次回、4月24日(土)に「作業科学の論文の読み方」(講師:近藤知子)を開催予定。広報を広げるか?

②実践につながる班

研修会の開催:

・「作業科学の基本的概要および作業の視点を理解し、自身や他者を作業の視点で理解する」

1月29日(金曜日)20:30-22:00 作業療法と作業科学(西方浩一)

3月5日(金曜日)20:30-22:00 自らの日常を作業の視点で理解する(渡辺慎介)

3月26日(金曜日)20:30-22:00 作業の視点で実践を理解する(安田友紀・大谷将之)

・5月から別の新規の研修会を開催予定。

③機関誌編集

・作業科学を養成校でどう教えるかに関する「特集」の企画を立て、作業科学教育を行っている人に依頼。4月と7月締め。

・HPに論文募集を掲載

(イ) 広報・ネットワーク

①HP:学術大会用のページを作成

②メーリングリスト:管理担当者の変更希望あり、後任が見つかり次第交代?非会員もメーリングリストに参加は可能であるが、管理・運営方針が曖昧な状態なので、明確化が必要か? どう活用すべきか? 別のSNSの使用も含めてどうあるべきかをそろそろ検討すべき

→案1)メーリングリストは会員のみにして、非会員への広報はFacebook等のSNS利用する

→案2)非会員を含めての広報は、SNSは、インスタグラム、ツイッターを使用するか?

これらに明るい人をリクルートしたり、これに関する情報を収集し、再度検討する。

③研究会ニュース:活動は特になし。ニュースのトピックとして、OSカフェに参加した人に記事を書いてもらう案

(ウ) 特設委員会

①「作業的公正」をテーマに、以下の日程(20時半-22時)でOSカフェを開催した。()内は話題提供者。30~40名参加で、6~7割が再参加者。初学者向けではない。

1月21日(木)「身近な作業的不公正を考える」(吉川ひろみ)

2月25日(木)「作業的公正を目指す当事者運動という作業」(中野里佳)

3月18日(木)「育児を通して作業的公正を考える」(甲斐公規)

(エ) 学術大会

実行委員会でWEB会議を実施している。日程、講師は広報済み。一般演題、自主企画も募集中。座長等の依頼を進める予定。

II. 検討事項

1. 第24回学術集会開催地

- ・長野学術集会の可能性。長野保健医療大学の春原るみ氏と中塚が中心になって、6~7名のメンバーは集まり、開催に向けて話し合っている。準備の大まかな段取り、流れを知りたい。作業科学セミナー参加経験者は4~5名で非会員もいるが、作業を大切にしている仲間が集まり、セミナー運営という作業を通して学びを深めていきたいと考えている。身近な作業や作業科学の知識の作業療法への活用に関心がある。来年の秋か?

2. 赤字の改善

・前回、会員が250名になることで単年度赤字が開催

されることを確認。継続して、会員募集につながる企画を実施する努力とその広報を行う。

3. 研究会の目的・会則の見直し

・目的・会則の見直しの進め方: 次回、会則を精読しておき、見直しのスケジュールや方法を定める。

4. 事務局業務見直し・役割分担・業者依頼の可能性

・事務局業務見直しの進め方: 来年度ぐらいまでは現状維持

5. 会員アンケート: 次回以降

6. 研究会ニュースの位置づけと掲載内容: 次回以降

2020年度 第6回三役会議

〈日時〉2021年5月17日(金)20:00～

〈場所〉Zoom ミーティング

〈出席者〉近藤, 齋藤, 中塚, 坂上

【報告・検討事項】

I. 報告確認事項

1. 事務局報告

1) 会員数と会計状況

・会員数: 223名(内, 学生会員6名)

・会計: 収入計 690,130円 支出計 575,304円 通帳残高 1,050,744円

2. 各班活動状況確認

(ア) 学術

① 研究推進班

・4月24日(土)10-12時「作業科学論文の読み方」オンライン研修会を開催(講師: 近藤知子)、参加者46名(会員28名、非会員18名)、参加者が多く黒字となり研究会に78780円入金できた。参加費を徴収で金額を間違った人への返金作業が発生、今後、注意喚起を行う。参加者の感想も好評(詳細は別紙報告書を参照)。オンライン研修会の開催に慣れてきたが、参加者も増え事務作業も多い。後継者も考え、委員の育成や

日当の検討を行う。

② 実践につなげる班

・「テーマ: 作業と健康の関係を人に説明できるようになるろう」(齋藤さわ子、港美雪)は、6月より月1回(平日午後、休日など条件を変えて同じ内容で2か月継続)開催。まずは、6月25日(金)、7月29日(木)の予定。7月1日から年度始まりなので、6月の研修はすでに会員の人のみとする。ZOOM開催。

(イ) 広報・ネットワーク:

① 研究会ニュース: 6月に2020年度第2号ニュースは6月に発刊予定。2021年度の第1号は、総会終了後、時間をあまりおかずに発行予定。

④ セミナー開催サポート

(ウ) オンライン特設委員会

・4月24日(金)20:30-22:00 OSカフェ

テーマ「作業的公正をどう教えるか」

話題提供者: 星野藍子(名古屋大学) 大学の授業で実際に行った内容を紹介。作業的不公正に関連する社会問題への取り組みを考え、学生がグループに分かれてプロジェクトを企画しプレゼン大会を開催した。

・5月も作業的公正を継続

・来年度、どのような立ち位置で進めるかについては、6月にメンバー(吉川、西方、中塚)で検討予定。

(エ) 学術大会

・学術大会の演題と自主企画は、例年通りだがまだ少ないので、募集期間を延長する予定。周囲の方に声をかける。また、演題募集と学会参加へのお誘いメールを会員一斉メールで周知。

II. 検討事項

1. 第25回学術大会開催地について

・長野県開催に向けた近況

春原るみ氏(長野保健医療大学)とともに、長野県の JSSO 会員有志でミーティングを2回実施。来年10月の土日、同大学での開催を検討中。

2. 今年度事業確認と来年度事業の検討(赤字改善を含む)

- 今年度の事業と反省、次年度の事業と予算見込みを各班から報告
- 今年度は機関誌にかかる経費が少なかったこと、研修会で黒字となったことが、今年度の収支が黒字見込みとなったと考えられる。来年度の機関誌の予算の見直しを確認。

- 作業科学普及啓発委員会(仮)の提案(中塚)
研究推進班の研修会では、これまで参加者の作業科学への理解はそれぞれなので、「研究手法」や「論文の読み方」だけではなく、基礎的な内容も講義を行ってきたが、今年度は時間的な制約もあり未実施。今後、作業科学の普及啓発を考えると、初学者への発信は必須と考え、委員会の発足などを提案。

- OS カフェの位置づけの明確化
→6月の特設委員会のミーティングを踏まえて検討していく

3. 理事会の招集

- 6月末オンラインにて予定

4. 総会の方法

- 9月オンライン、見なし総会の方向で理事会に提案。

5. 研究会の目的・会則の見直し

- 今年度理事会にて:会則を読み、来年度総会で審議が必要なものがあるか確認
- 来年度3役会:今後の研究会のあり方を踏えて、会則を変更した方が良い文言や表現がないかを審議、必要があれば再来年度の総会で変更予定

6. 2021年度移行のスケジュールについて

- 2021年6月1日 次年度移行と新年度年会費依頼のアナウンス(メール配信)HP 担当者とIT管理者に新年度パスワードと変更日の確認

- 2021年6月30日 次年度移行と新年度年会費依頼のアナウンス再送(メール配信)

- 2021年7月1日 年会費納入者・新パスワードのお知らせ。全員にパスワード配信済みのお知らせ

- 2021年7月15日頃 HPパスワードの変更

- 6月1日年会費納入分から2021年度会員として登録。

2020年度 第7回 三役会議

(日時)2021年6月21日(金)20:00~

(場所)Zoom ミーティング

出席者: 近藤、坂上、中塚、山根、齋藤

資料: 会員状況および収入・支出状況(6月21日付)

【報告・検討事項】

I. 報告確認事項

1. 事務局報告

1) 会員数と会計状況

- 会員数:223名(内、学生会員6名)
- 会計:収入計 768,910(756,910)円 支出計 575,304円 通帳残高 1,129,524(1,117,524)円。

昨年度と同等の会員が確保でき(事業計画では、正会員210名)、また、研修会も黒字であるため、黒字で決算が閉められる予定。会員は実践家の比率が高くなっている。

2. 各班活動状況確認

(ア)学術

- ①啓発・国際情報:なし
- ②研究推進:この間、とくになし(前回の報告の通り、2、4月にオンライン研修会を開催した)
- ③実践につなげる

- 6月25日、20:30-22:00、テーマ「作業と健康の関係性を人に説明できるようになる」(齋藤さわ子、港美雪)参加者25名ぐらい。委員から、「基礎的な研修会を繰り返し開講するのはどう

か」及び「全ての研修会を見直し、位置付け直しはどうか」という意見が出ている。

④機関誌編集:なし

(イ)広報・ネットワーク:なし

①HP:なし

②メーリングリスト:随時研修会等を発信

③研究会ニュース:6月中にメールで配信予定。

④セミナー開催サポート

(ウ)オンライン特設委員会

今年度、以下の通り、13回開催した。

| 回 | 日時 | テーマ | 話題提供者 |
|----|-------------|-----------------------|---------|
| 1 | 2020年7月10日 | コロナ禍における作業 | 吉川 |
| 2 | 2020年7月24日 | 作業科学の用語の整理 | 西方 |
| 3 | 2020年8月7日 | 作業ポर्टフォリオチャート | 吉川 |
| 4 | 2020年8月28日 | ディスカッション、これまでの振り返り | 吉川、西方 |
| 5 | 2020年10月30日 | 作業科学教育①(授業紹介から) | 吉川、西方 |
| 6 | 2020年11月27日 | 作業科学教育②(授業紹介から) | ボンジェ、坂上 |
| 7 | 2020年12月23日 | 作業科学教育③(授業紹介、雑誌編者から) | 渡辺、小林 |
| 8 | 2021年1月21日 | 作業的公正①(身近な作業的不公正を考える) | 吉川 |
| 9 | 2021年2月25日 | 作業的公正②(当事者運動) | 中野 |
| 10 | 2021年3月18日 | 作業的公正③(身近な作業～育児) | 甲斐 |
| 11 | 2021年4月23日 | 作業的公正④(学生にどう教えるか) | 星野 |
| 12 | 2021年5月28日 | 作業的公正⑤(タウンゼント博士の論文から) | 吉川 |
| 13 | 2021年6月11日 | 作業的公正⑥(前回の内容をうけて) | 吉川 |

- ・参加者の感想や運営上の利点、課題など:参加費無料で、対象を研究会会員をとし、入会をすすめていききっかけとしてきた。参加者の多くは40～50代で、ほかの研修会では珍しい層が定着している。教えを乞うよりも、ディスカッションの場として機能しており、満足度も高い。
- ・過去13回開催する中で、参加者が定着し、参加者同士も話しやすくなってきた。少しずつ、畑を耕している感じがする。
- ・人によっては、まだ「私たちの日常の作業」と「クライアントの作業」を同じ視点で見れない感じはする。
- ・作業の視点をもっているのが私たちの強み。作業について語る場がないので、この場は大切。

・これが正しい、これが間違い、という視点がぬぐえない人もいる。そうではないことが分かる場があるところと良い。他の人の話しを聞くことで分かることもある。

・参加者から運営委員を募り、2名の立候補あり。星野藍子(名古屋大学大学院)、甲斐公規(国東市民病院)。

・研究会開催としては、謝金などはもうけず、ディスカッションを行う参加型で行ないたい。あらたな研修会を行いたいなど様々な意見が出るのはよい。その意見をうけて、どこがやるか、OSカフェでやるか、他の部署でやるかは、検討が必要。

(エ)学術大会

- ・一般演題 \times 切延長し、7演題+2?、自主企画3題、例年通り。

II. 検討事項

- 3役の今年度の事業報告:3役会の開催、理事会の開催、HPに理事挨拶掲載
- 次年度の3役会の事業計画(運営方針)
 - 1)会則の見直し(文言も含めて)
 - 2)委員会の班の体系的見直しと再構築:
 - ・学術委員会:基礎・入門班の設立とそれに伴う各班の研修会の見直し
 - 3)組織の見直し(委員会の構成の見直しと再構成等)
 - 4)事務局の人事(理事2名体制の必要性)
- 来年度の作業科学研究会の方向性
 - <3役会から理事会への提案>
 - ・初学者が学びやすいように
 - ・今年度と同様、オンラインによる研修会の充実(オンライン特設委員会の位置づけも含めて)
 - ・作業行動学会、臨床作業療法学会との差別化のためにどう特徴やアピールをしていくかなど、研究会に対しての理事の考えを含めて見定める
- 次回理事会の進め方
 - ・事業報告後に上記の提案に関し議論
- その他
 - ・3役会と理事会の位置付け・関係